

1. 令和7年度わかさこども園教育目標

若桜を愛し 何事にも意欲的で自分の思いが言え、最後までねばり強く行える子どもの育成

2. 本年度の定めた重点に取り組む目標や計画を基に設定した  
園の具体的な評価目標や計画

\* 重点目標

- 遊びたくなる環境や保育の展開
- 自らの気づきを学びにつなげる研修
- 地域に開かれた園づくり

3. 自己評価項目の達成状況及び取り組み状況

A:十分に達成されている

B:達成されている

C:取り組まれているが、成果が十分でない

D:取り組みが不十分である

評価項目	結果	理 由
(1) 遊びや活動が充実するための環境構成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもが自ら「遊びたい」「やってみよう」という気持ちを大切にしながら遊びの環境の準備を意識することができた。</li> <li>• 各年齢ごとに、子どもの興味や発達を押さえた保育の展開をしたことで子どもが、試行錯誤したり、くり返し遊ぶことの工夫や大切さを感じることができた。</li> <li>• 月齢や発達の差が大きく1人1人が十分に楽しめるような活動の設定や環境の工夫が難しかった。</li> <li>• 環境の構成を見直したり、年齢に合った素材を考えられるようになった。</li> <li>• 保育教諭自身が活動の見通しを持ち、環境や関りを工夫することも大切と感じた。</li> </ul>
(2) 資質向上の取り組み	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 園内で保育を公開したことで、他の職員よりアドバイスをもらい、次の保育に活かすことができた。遊びの様子(画像)から、子どものつぶやき、環境構成や保育者の援助などの振り返りをすることができた。</li> <li>• 外部研修や県の指導(計画訪問、要請訪問)などを受け、保育の公開をしたことで、遊びの中での成長や学びを子どもの姿から感じることができた。</li> <li>• 分からないことや悩んでいることの相談ができるようになってきたが、保育の振り返り後の職員間の共有が出来なかった。</li> <li>• 人的環境として、子どもと共に遊び子どもの気持ちや表情、言葉などを汲みとり、関りや配慮をしていく事が課題と感じた。</li> </ul>

(3) 幼小の円滑な連携	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児が作った遊びのコーナーを秋の交流会に持参し、一年生にも楽しんでもらう場面があり、共に楽しい時間を過ごすことが出来た。遊びの中の子ども、一年生の育ちや学びの姿を共有することが出来た。</li> <li>・交流計画に沿った交流会を実施できた。交流会の事前の話し合いや事後の振り返りを園と学園が子どもの姿について話すことで、共通理解が図れた。</li> <li>・架け橋期カリキュラムを用いて全職員で交流活動を考えていく事が共通理解につながった。</li> <li>・こども園で水遊び交流会を実施した。その遊びの場面を全職員が参観したことで、年長児の担任だけでなく、職員全体の共通理解につながり、連携の大切さを改めて知ることができた。</li> </ul>
(4) 地域・家庭との連携	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と園や家庭での様子を細かく伝え合うことで、保護者の安心感につながり、園の方針の理解や園行事への参加に協力的な姿が見られるようになった。</li> <li>・クラス便りを毎月家庭に配布している。3、4、5歳のおたよりの内容もドキュメンテーション方法で知らせることで、保育のねらいや子どもの育ちがより分かりやすくなったと思う。</li> </ul>

#### 4. 園関係者評価委員会による評価及び意見の概要

評価項目	理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育内容全般について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の思いに寄り添いながら活動を進められていると思う。しっかりと思いを聴くということは、教職員としてとても大切なことなので、今後も大切にしてほしいと思う。先生方が早めに動きすぎないことは常に心がけてほしい。(危険想定を必ずしたうえで)</li> <li>・若桜学園とめざす姿の共有をされて生活リズムの合同の取り組みや5歳児と一年生の交流などの取り組みはこれからも続けてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参観などに行くと、どの子どももげんきで伸び伸びと活動することができたと思う。</li> <li>・子ども一人ひとりに寄り添っていただけていると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの数も減り、保護者会活動も難しくなってくると思うが、園と保護者会が連携、協力しながら事業を進めていってほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・保護者との連携について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お便り、マチコミタイムライン等を活用し、毎日の子どもの様子を知ることが出来、保護者アンケートでも全ての家庭で「十分に達成されている」と感じられていることは運営の成果だと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に関する避難訓練の話聞き、計画的に行っていることに安心した。実際に地震があった際の園の対応を聞き、その成果が活かされ、安全管理の大切さを実感した。</li> </ul>

#### 5. 自己評価結果と園関係者評価の結果を踏まえた、園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果の概要

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心・安全な園運営に引き続き努めていく。</li> <li>・保育・教育の理解のため、各年齢の発達が見られる参観日、クラス便りやマチコミタイムライン等を活用し、日々の子どもの様子を細かく伝えていく。</li> <li>・保育の資質向上の為、職員研修の参加を進めていく。</li> <li>・来年度も子どもが少人数となり、園の行事、保護者会の行事等の内容の検討を工夫していきながら、それぞれの年齢で心動かす体験や経験、保育内容の充実、地域、学園との交流などを通し、子ども達の育ちと学びを引き続き保証していく。</li> </ul>